



あっという間に一年がめぐり、美しい桜の季節になりました。平成20年2月4日の立春に発足したTRAUBENも5度目の春を迎え、皆様のあたたかいご協力とともに歩み続けております。すべての出会いに感謝し、また新たな気持ちで次の春を目指します！

近況報告

ロンドンは3月半ばまで雪がちらつく、春遠き様相でしたが、半ばを過ぎ、ようやく長く暗い冬が終わりに近づいたような、まだまだ冷たさの残る風の中にも時折、柔らかな春風の気配を感じ、重く垂れこめる曇天に、ふさがちなロンドンの人たちの表情も少し明るさが混ざってきたような気がします。

日本は桜の季節、昨年より好評をいただいている、ライヴハウスでのライヴコンサートを今回は渋谷駅のすぐ近く、渋谷区桜丘町に建つ東急ホテルセルリアンタワー内にあるライヴハウスでやらせていただくことになりました。その名もさくら通り（桜並木が美しいそうです！）に面するホテル内部の素敵なライヴハウスにて、この桜の季節に演奏させていただけることをとても嬉しく、楽しみにしています。

昨年のみなとみらいホールリサイタル10周年を記念して、後援会より記念誌を！との嬉しいご提案をいただいて、本当はこの3月に出来上がる予定でございましたが、ただの記念誌ではなく、もっと手に取って面白いものを！とのご意見をいただきまして、さらに内容を充実させることとなり、あと少しお時間をいただく形となりました。応援いただいている皆様に楽しんでいただけるものとなりますよう、心を込めたいと思いますので、あと少しお待ちいただければ幸いです。

【伊都】



ライヴハウスコンサート速報！

3月27日、渋谷のライヴハウス「JZ Brat SOUND OF TOKYO」は大勢のお客さんの熱気に溢れました。午後7時、いつもよりカジュアルなワンピース姿の伊都さんと、一昨年のリサイタルで共演したピアニスト村上明子さんが登場。1stステージはクライスラーやモーツァルト、シューベルトなどクラシックな雰囲気の小品が演奏されました。R.V. ウィリアムズの「揚げひばり」ではこの曲の元となったジョージ・メレディスの詩が壁面に映し出される演出も。伊都さんのMCでヴァイオリンの音色は、まさにひばりの声に聞こえます。

2ndステージにもほとんどのお客さんがとどまり、タンゴや映画音楽、珍しいところでは山田耕筰「からたちの花」など、ライヴならではの雰囲気に包まれました。ラストの曲ピアソラの「リベルタンゴ」に酔いしれ、アンコールの、映画「スティング」の主題歌「ジ・エンターテイナー」では全員の手拍子で会場が一体となりました。

JZ Bratは、さすが渋谷！と思わせる広々としたお洒落な空間で、洗練されたサービス、食事メニューも美味しくリーズナブル、とお客さんの評判は上々。曲によって照明の色が変わるなど、クラシックの舞台にはない演出も新鮮でした。「是非またこのお店で」というお客さんの声に応える日も遠くなさそうです。



いとちゃんの
クラシック講座

op.16

日本がお花見を楽しんでいる頃、ヨーロッパはやはり大イベント、イースター（復活祭）一色となります。学校は約2週間のイースター休暇となり、コンサートでは復活祭オラトリオなど、イースターにちなんだ音楽が演奏され、街はイースターエッグとウサギであふれかえります。このイースターエッグとウサギ、なぜ卵なのか、そしてなぜ鶏ではなくウサギなのか、起源には諸説あるようですが、古来よりウサギと卵は豊穡のシンボルなのだとか。

イギリスやドイツ語圏では（オーストリアも含む）この卵をウサギが隠すという風習があり、今でも色とりどりに絵付けされたゆで卵をイースター当日、庭に隠し、子供たちはそれを探し食べるという行事が行われます。（食べると健康になるそうです。私自身はこのゆで卵に何度かあたって七転八倒したことがあり、良い思い出がないのですが。）時価10億とも言われる豪華なロシア皇室のインペリアル・イースターエッグなど、イースターエッグは様々な装飾品でも知られますが、実はこの卵の形、横と縦の比率は世界で最も美しい比率と言われる黄金比（1:1.6）なのだそうです。

バッハやモーツァルトの音楽も楽章構造などが黄金比と言われていますが、モーツァルトの生地ザルツブルグでは音楽ファン待望の、ザルツブルグイースター音楽祭が、今年から今までのベルリンフィルに変わり、ドイツの保守派で知られる指揮者、ティーレマン率いるドレスデンシュターツカペレ（ドイツの古都ドレスデンの伝統あるオーケストラ）の音楽祭となり、ワーグナーやベートーヴェンがメイン、モーツァルトは一切演奏されないことが話題となっています。【伊都】

D	V	D	C	l	a	s	s	i	c	C	o	l	l	e	c	t	i	o	n
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



作品 No. 14 「屋根の上のバイオリン弾き」

1971年アメリカ

アイザック・スターンが弾く哀愁のオープニングメロディ



ストーリー ロシア革命前夜のユダヤ人迫害を背景に、ウクライナの小さな村に住むユダヤ人、テビエを主人公に、家族の喜び、哀しみを描いている。貧しい牛乳屋テビエは、妻と5人の娘達と幸せに暮らしていた。ユダヤの伝統を打ち破り、上3人の娘達は好きな男性と結婚していく。テビエは伝統と、娘の幸せを願う気持ちの間で葛藤するがそんな中、ユダヤ人の追放が始まる…。

見どころ 世界的ロングランミュージカルの映画化。20世紀の巨匠、アイザック・スターンがヴァイオリンを吹き替えている。ウクライナ生まれのユダヤ人であるスターンは、この物語に深く共感していた。来日した際も、森繁久彌の舞台を見て感動。その後、森繁と親交があったという。この映画のテビエ役、トポルは舞台の主役も長く務めただけあって、演技も歌も素晴らしい。

感想 映画の最初と最後に流れる曲は、アイザック・スターンの故郷への思いがあってこそその演奏であると思われ、心を打つ。重いテーマを含んだ作品なのに、それを感じさせないユーモアと、生きる喜びや希望、家族愛に満ちているところが、長年この物語が愛され続ける理由だろう。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します。
昨年より、DVD旧作は常時100円でレンタルできるようになりました。

お詫び 今年度配布予定でした10周年記念冊子は現在制作中ですが、まだ完成に至っておらず、お詫び申し上げます。完成次第、皆様にお届け致しますので、今しばらくお待ちください。

編集後記 「ヴァイオリニスト加納伊都の応援」のみならず、彼女を通してクラシック音楽に触れることで、私達の人生が少しでも豊かになるように…との思いで5年前に始まった、この後援会。実際に会員の皆様の生活を潤すお手伝いになっているかどうかはわかりませんが、少なくとも、音楽のプロを身近に感じることで、クラシック音楽の敷居はちょっと低くなったのではないのでしょうか。（もともとクラシック通の方はゴメンナサイ）/クラシックど素人の私でも伊都さんのおかげで特にヴァイオリンの音色には脳が“心地よい”の反応を示すようになりました。/これからも皆様の暮らしに音楽が花を添えますようにと願いつつ、この会を続けていきますので、よろしく願いいたします！

<ゆ>

ご意見・ご感想をお寄せ下さい

発行：加納伊都後援会 T R A U B E N

〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email：itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp
Homepage：http://www.ito-vn.jp/